

(S2020-09 用)

研究課題名	当院における転倒・転落事故の現状と課題
研究期間	西暦 2020年 7月 8日 ~ 西暦 2020年 11月 23日 (登録対象症例：西暦 2018年 4月 1日~ 西暦 2019年 3月 31日)
研究の目的と意義	<p>わが国では高齢化社会を迎え、急性期病院においても高齢患者の入院が増加しています。急性期病院の場合は多くの患者さんが発症直後あるいは術後早期であるため体調の変動が大きい上に、治療の影響や入院により住み慣れた生活場所から突然環境が変化する心理面の影響もあって、転倒・転落のリスクは一層高まります。特に、高齢者の転倒・転落は時に頭蓋内出血や大腿骨骨折など致命的な合併症を起こすだけでなく、事故後は日常生活動作全般が低下し、入院期間の延長やリハビリテーション目的の転院などに伴う医療費、介護費の増加要因にもなります。</p> <p>そこで、当院入院中に発生した転倒・転落事故の発生状況を後方視的に調査することにより、転倒・転落事故の実態と重症化リスクについて検討するため、本研究を計画しました。</p>
研究方法	<p>2018年4月1日~2019年3月31日における当院入院患者さんの内、当院医療安全推進室にインシデント・アクシデント報告が提出された転倒・転落事故434件を分析対象とします。</p> <p>インシデント・アクシデント報告書および電子カルテの記載から、患者さんの要配慮個人情報を除く、性別、年齢区分、診療科、転倒・転落歴の有無、入院から事故発生までの日数、事故時の状況、転倒・転落リスク要因の有無、転倒・転落スコア、影響レベル、事故後の合併症の有無、初期対応・治療の内容、最終転帰などを調査項目とし、対象を軽症群（レベル0~3a）、重症群（レベル3b~5）に分類比較して重症化のリスク要因を後方視的に検討します。</p>
個人情報の保護、研究参加の拒否について	利用する情報からは、お名前、生年月日、住所、ID番号など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。また、本研究への参加拒否を希望される患者さんについては、担当医師にお申し出ください。
結果の公表	研究で得られた結果は、学会、医学専門誌への発表を予定していますが、その際にも、患者さんの名前など対象者を特定できる情報は含まれません。（公表する結果は統計的な処理を行ったものだけです）。
問合せ先	京都第二赤十字病院 医療安全推進室 (職名・氏名) 副院長、医療安全推進室室長・長村敏生 〒602-8026 京都市上京区釜座通丸太町上ル春帯町 355-5 TEL：075-231-5171 (代) FAX：075-256-3451 (代)